



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第45号
令和3年6月4日

5月「皐月」「May」「薫風の候」から6月「水無月」「June」「文月」「初夏の候」へ。すでに梅雨に入り、鮮やかな紫陽花の季節を迎えています。
紫陽花の 雫あつめて 朝日かな (加賀千代女)
梅雨の晴れ間、コミュニティ推進課の窓からは二ノ岳、三ノ岳の木々の盛り上がりまで見えます。若葉、新緑の木々も眩しさ、逞しさを増していきます。
新緑と いふしづけさと 明るさと (稲畑汀子)



さて、本年度も2か月が経ち、各学校では学校運営協議会が設置され、地域学校協働活動との一体的推進に向けて動き出そうとされているところではないでしょうか。そこで今回は次のテーマで書きます。(参考文献:「これからの学校と地域」文部科学省)

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

「なぜ今、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が必要なのか？」

今年、急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化、多様化しています。

学校は、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校児童生徒数の増加、特別な配慮を必要とする児童生徒数の増加など、多様な児童生徒の保護者等への対応が必要な状況となっています。また、そのような学校の役割の拡大により教員の業務量が増加しているといった課題も出ています。

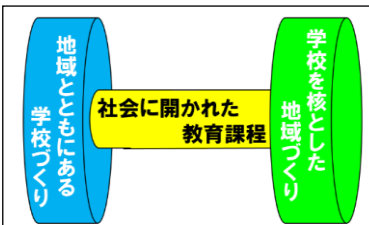
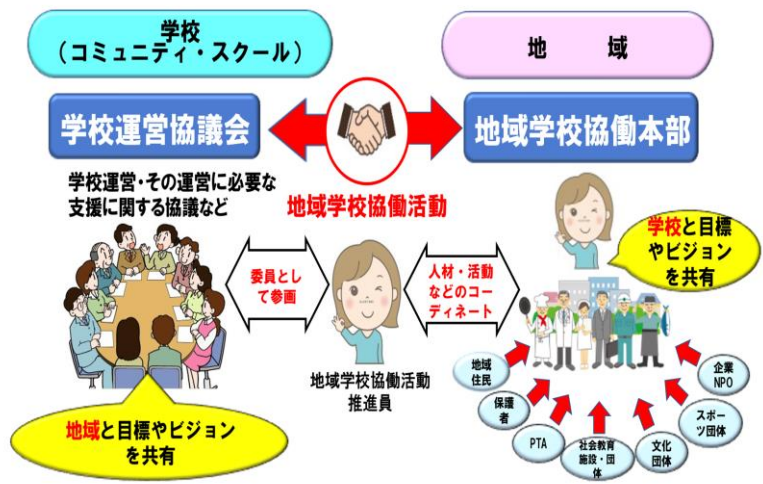
一方、地域においても、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化等により地域社会における支合いやつながりが希薄化することによって、地域社会の停滞や教育力の低下などが指摘されています。

そうした状況の中、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という新学習指導要領の目標を学校と地域が共有し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、相互の連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子供たちの成長を支えていくことが必要です。

これらを受けて、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な実施が推進されています。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要で、学校運営協議会の協議や熟議等がその役割を果たします。その結果を踏まえ、幅広い地域住民等が参画することによって、教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化につながります。

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。



次代を担う子供に対してどのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が連携・協働し改革が進められていきます。そこでは「地域」ともにある「学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」がその改革の両輪で、その両輪をつなぐ「軸」が「社会に開かれた教育課程」です。「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」が相互に補完し高め合う存在として相乗効果を発揮していきましょう。

「つながり」は面倒くさいですか？

先日、地元紙に載っていた記事を一部抜粋します。

．．．．(省略)．．．．

P T Aの学級役員決めにも立ち会った。理由や意思を問わず、じゃんけんで決めることになった。すると生徒の父母の代理という祖母が「もし役員に決まったら息子に叱られる」と涙。訴えは認められなかったが、じゃんけんに勝って安堵する表情が印象に残っている。

P T Aに関しては近年、入会自体を敬遠するケースが全国で目立つ。負担を避けたいのか、組織への問題提起か。入会は任意であり、さまざまな理由が認められるべきだ。ただ、会員減少の問題は、P T Aだけではなく、老人会や子ども会など多くの組織の存続を危うくしている。

町内自治会もそうだ。熊本市の加入率は近年、90%近かった2006年をピークに減少傾向が続く。昨年は85%。未加入世帯の増加が止まらず、約5万世帯に及んでいる。

自治会を巡っては、16年の熊本地震で防災・減災に果たす役割が再認識され、加入が増えるとの見方もあった。ある自治会長は、日ごろは縁遠かった人々も避難所運営などに関わったことで、「地域のつながり」が広がるのでは、と期待してという。しかし、5年を経た今は「当時の雰囲気が続いているとは言えない」と頭を悩ませている。

人と人の「つながり」は一筋縄にはいかず、時に面倒くさくて、やっかいだ。それでも日々繰り返される地道な活動や、いざという時の協働は地域社会に欠かせないものだろう。世界の諸課題と向き合う「持続可能な開発目標（SDGs）」も、「パートナーシップ」が課題解決の鍵だと強調する。食わず嫌いにならず、折り合いながらつながる糸を手繰り合ってみよう。

「糸」 中島みゆき

なぜ めぐり逢うのかを
私たちは なにも知らない
いつ めぐり逢うのかを
私たちは いつも知らない

どこにいたの 生きてきたの
遠い空の下 ふたつの物語

縦の糸はあなた 横の糸は私
織りなす布は いつか誰かを
暖めうるかもしれない

なぜ 生きてゆくのかを
迷った日の跡の ささくれ
夢追いかけて走って
ころんだ日の跡の ささくれ

こんな糸が なんになるの
心許なくて ふるえてた風の中

縦の糸はあなた 横の糸は私
織りなす布は いつか誰かの
傷をかばうかもしれない

縦の糸はあなた 横の糸は私
逢うべき糸に 出逢えることを
人は 仕合わせと呼びます

アッチャンという5歳の女の子がいました。幼稚園の年長さんです。春の冷たい雨降りの中、友だちと2人で、幼稚園からの帰り道のことでした。いつものように、その日の幼稚園での楽しかった話をしながら歩いていました。

そのときアッチャンは、ある家の前に置いてあるチューリップの鉢に目をやり、突然立ち止まってしまいました。そして、そのチューリップをジーッと見つめ始めました。もう1人の友だちは、何のことやらわからず、不思議そうにアッチャンの姿を見ていました。

突然、アッチャンは、

「チューリップ、かわいそう」と言いながら泣き顔になりました。

「どうしてかわいそうなの」と、友だち聞きました。

「わたしたちは傘をさしているのに、チューリップは雨にびしょぬれになって、かわいそう。びしょぬれよ」。

そう言いながら、涙を流しているのです。

「雨が止むまで、チューリップに傘をさしてあげよう。」

そう言いながら、2人チューリップ傘をさしていたのです。